



いまこそ教養！



「名作文庫」通信



新刊案内	P1
特集展示【女流作家】	P2
作家紹介【マーガレット・ミッチェル】	P3-P4
名作文庫いざない圖書	P5-P6



令和元年 冬号



特集

女流作家

女性作家も多くの名作を残しています。女性ならではの視点で描く、恋愛観や、社会へのまなざしに触れてみませんか。



オーランド

ヴァージニア・ウルフ／著 杉山洋子／訳 ちくま文庫／刊

著者の自伝的性格を持ちながら、三百年を越えて生きる、両性具有者オーランドを主人公として描かれる。時代と性別を超え、多くの寓意に彩られた遍歴の物語。

日本を代表する女性作家・一葉。女性や少女の姿、心の機微を、明治に生きた著者が鮮やかに描く。

にぎりえ・たけくらべ

樋口一葉／著 新潮文庫／刊

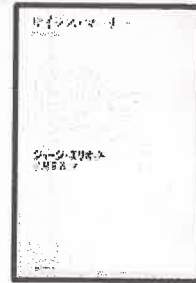
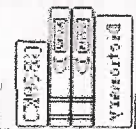
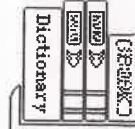
ヨークシャーにそびえる「嵐が丘」の屋敷を舞台に繰り広げられる愛憎の物語。世紀を超えて受け継がれる恋愛小説の傑作。

嵐が丘

E. Proust／著 鴻巣 友季子／訳 新潮文庫／刊

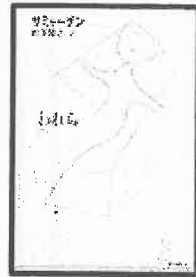
新しく買った本

こちらで紹介しているのは所蔵図書の一部です。



サイラス・マーナー

ジョージ・エリオット／作 小尾 芙佐／訳 光文社古典新訳文庫／刊
親友と恋人に裏切られ、信仰心さえ失ったサイラス・マーナー。彼と周囲の人々がたどった、人生の光と影。漱石が講義に使ったと言われる物語が、読みやすい新訳版となった1冊。



われら

ザミャーチン／著 松下 隆志／訳 光文社古典新訳文庫／刊
第二次世界大戦前に書かれたディストピア小説。発表当時は最も悪質な反ソ宣伝書と言われ、文学として評価されなかった。現代社会にも通じる、全体主義への批判を描く古典の新訳版。



夕鶴・彦市ばなし

木下 順二／著 新潮文庫／刊
毘から助けられた鶴が女人の姿で恩返しに来る「夕鶴」の他、「聴耳頭巾」「わらしべ長者」など語り継がれる日本の民話に取材した「民話劇」の数々。劇作家としての著者を代表する作品集。

【風と共に去りぬ】



鴻巣 友季子/訳
新潮文庫/刊

ストーリー

奴隷制が残る1860年代のアメリカ南部ジョージア州が舞台。大農園タラに生まれたスカレット・オハラは十六歳。気が強く、自己中心的だが言い寄る男には事欠かない。そんな彼女はタラでの生活を満喫していた。しかし南北戦争が勃発。スカレットの壮絶な人生が幕を開ける。奴隷の労働力に支えられていた南部白人のきらびやかな生活は、敗戦により一変する。その激動の時代を南部側の視点から描いた長編歴史小説。

南北戦争って？

1861年から1865年にかけてアメリカで起こった内戦。奴隷制存続を主張する南部諸州と奴隷制に反対する北部諸州との間で戦争になった。両軍合わせて五〇万人以上の戦死者を出したこの戦争は、アメリカが体験している戦役史上最悪の死者数である。この戦争の結果北部が勝利し、奴隷制が廃止された。



今号の作家紹介

Margaret Mitchell (マーガレット・ミッチェル)

1900年11月8日 - 1949年8月16日

マーガレット・ミッチェル

アメリカの白人貴族文化を描いた



ジョージア州アトランタに生まれ、幼年期は南北戦争を生き抜いた母方の親類の影響を大きく受ける。医学を志し1918年にマサチューセッツ州のスミス大学に入学するが、母親が死去したことにより学業を諦めアトランタへ戻った。

そして1926年、南北戦争の豊富な知識を持つていた彼女は、南北戦争とその後再建時代を南部人の視点から描いた『風と共に去りぬ』を書き始めたと言われている。彼女が生涯で発表した作品はこれのみで、1949年に自動車事故のため不慮の死を遂げた。

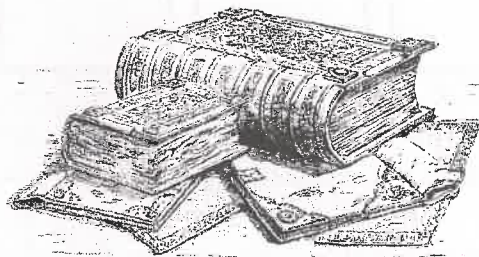
この作家の功績

『風と共に去りぬ』で知られるミッチェルだが、これはもともと出版するつもりなどなく書かれた手稿だった。偶然ある編集者の目に入ったことで出版することになったこの小説は、1936年に刊行するやいなや一躍脚光を浴び、後年ピューリッツァー賞を受賞する。1939年には映画化もされ、各国語に翻訳され世界的ロングセラーとなった。

アトランタにはマーガレット・ミッチェルハウス記念館があり、ミッチェルが記者として執筆していたコラムや、映画の撮影に使われた衣装や台本などが数多く展示されている。

名作文庫「いざない」現代図書

名作文庫は敷居が高い、難しそう、などなど…今まで名作文庫を読んだことのない方や、もっと名作文庫を楽しみたい方に、名作文庫に「いざなう」現代本を紹介します。



おすすめいざない図書

私はスカーレット (1)

林真理子／著
小学館文庫／刊



あの名作が現代によみがえる

世界中でベストセラーとなった長編小説『風と共に去りぬ』を、林真理子が現代の読者に向けてリメイクした作品。主人公のスカーレット・オハラは、プライドが高くわがまま。華やかなドレスとパーティ、そして男の子にちやほやされるのが大好き。まわりの女子にはもちろん実の妹にすら嫌われている、そんな史上最強のヒロインの波乱万丈な人生が、一人称小説として鮮やかによみがえる。

もっと知りたい「風と共に去りぬ」

「タラへの道—マーガレット・ミッチェルの生涯」
ツチエルの生涯」

マーガレット・ミッチェルの本格的伝記。幼いころの家族との思い出から、ベストセラー作家となった直後の混乱や戸惑い、そして四九歳で亡くなるまでの彼女の一生が綿密に描かれている。



アン・エドワーズ／著
大久保 康雄／訳
文芸春秋／刊

「謎とき『風と共に去りぬ』…
矛盾と葛藤にみちた世界文学」

『風と共に去りぬ』はただの歴史小説ではない。高度な文体戦略を持って描かれたのは、壮大な矛盾の塊であった。著者ミッチェルとその一族がたどってきた道のりを重ね合わせ古典名作を読み解く。



鴻巣 友季子／著
新潮選書／刊

「二〇世紀女性文学を学ぶ人のために」

戦争の時代と称される二〇世紀。その激動の時代、女性たちは家父長制からの解放や男性との共生を模索していた。その文学的いとなみについての世界的な流れを見る。

児玉 実英／著
世界思想社／刊

「『風と共に去りぬ』の女たち—ミッチェルの生き方とアメリカ南部」

スカーレット、メラニー、マミー、そして著者ミッチェルの生き方を軸にして、この名作の背景に広がる世界を明らかにする。

大島 良行／著
専修大学出版局／刊



SHIMOIGUSA LIBRARY



下井草図書館には、「名作文庫」の棚があります。
一度は読んでおきたい、古今東西の名著名作を、
文庫版、新書版で集めた本棚です。



季刊名作文庫通信 3.6.9.12月発行

MASTERPIECE COLLECTION

